

令和8年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	家庭	科 目	家庭総合	学 年	1	類 型	農業科 食品デザイン科
単位数	2	教科書	高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる	出版社	第一学習社		
副教材	家庭科ノート、調理実習ノート基礎編						

学習の到達目標

- (1) 生活を主体的に営むために必要な科学的理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付ける。
- (2) 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向け、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

授業の概要

人の一生と家族・家庭及び福祉、食品と栄養、持続可能な消費生活・環境、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動に関する知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を解決するとともに、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を育てます。また、学習内容に応じて実験・実習を行い、一斉指導、個別指導、グループ指導を行い、視聴覚教材も多く活用します。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生活を主体的に営むために必要な、人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域社会における生活の中から問題を見だし、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを理論的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働しよりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
評価の対象	・定期考査 ・ワークシート ・授業時の観察 など	・定期考査 ・ワークシート ・課題（レポート・作品など） ・授業時の観察 など	・ワークシート（振り返りなど） ・課題（レポート・作品など） ・授業時の観察 など
備 考	・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。 ・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。 5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの 4 … 十分満足できると判断できるもの 3 … おおむね満足できると判断できるもの 2 … 努力を要すると判断されるもの 1 … 一層努力を要すると判断されるもの		

間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとまりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	1 章 □ これからの生き方と家族 1 生涯の生活設計 2 家族・家庭と社会のかかわり 5 章 食生活をつくる 1 人の一生と食事 ○調理実習 ○技術検定食物3級練習・実施 ○夏休み課題 (ホームプロジェクトの実施)	• これからの生き方と家族に関する知識を身に付けている。 • 調理に関する基礎知識・技術を身に付けている。 • 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、生活設計を工夫することができる。 • 様々な人と協働しよりよい社会の構築に向け、食生活と健康について探求し、生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	1 学期 期末考査
2 学期	○ホームプロジェクトの発表 2 栄養と食品 3 食生活の安全のために 4 食生活をデザインする ○調理実習	• 栄養と食品、食の安全等について理解し、目的に応じた調理に必要な技術を身に付けることができる。 • 食生活に関する課題を見つけ、解決策を考える力を身に付けることができる。 • 様々な人と協働し食生活と健康について探求しようとしている。	2 学期 期末考査
3 学期	8 章 経済生活をつくる 1 私たちの暮らしと経済 2 消費者問題を考える 3 持続可能な社会をめざして 2 章 次世代をはぐくむ 1 子どもの発達 2 子どもの生活 3 子育て支援と福祉	• 消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性を理解している。 • 消費者問題や消費者の自立と支援等について理解し、解決する力を身に付けている。 • 自立した消費者として、責任ある消費について工夫ができる。 • 子どもを生み育てることの意義や保育の重要性について考え、子どもの健やかな発達を支えるために課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	学年末考査

令和 8 年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	家庭	科 目	家庭総合	学 年	1	類 型	農業科 生産科学科
単位数	2	教科書	高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる	出版社	第一学習社		
副教材	家庭科ノート、調理実習ノート基礎編						

学習の到達目標

- (1) 生活を主体的に営むために必要な科学的理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付ける。
- (2) 生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向け、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

授業の概要

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住の生活の科学と文化、持続可能な消費生活・環境、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動に関する知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を解決するとともに、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を育てます。また、学習内容に応じて実験・実習を行い、一斉指導、個別指導、グループ指導を行い、視聴覚教材も多く活用します。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生活を主体的に営むために必要な、人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域社会における生活の中から問題を見いだし、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを理論的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働しよりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組む、生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
評価の対象	・定期考査 ・ワークシート ・授業時の観察 など	・定期考査 ・ワークシート ・課題（レポート・作品など） ・授業時の観察 など	・ワークシート（振り返りなど） ・課題（レポート・作品など） ・授業時の観察 など
備 考	・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。 ・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。 5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの 4 … 十分満足できると判断できるもの 3 … おおむね満足できると判断できるもの 2 … 努力を要すると判断されるもの 1 … 一層努力を要すると判断されるもの		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	1 章 これからの生き方と家族 1 生涯の生活設計 2 家族・家庭と社会のかかわり 6 章 衣生活をつくる 1 人の一生と被服 2 被服材料の管理 3 これからの衣生活 ○夏休み課題 (ホームプロジェクトの実施)	・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題、自立や男女平等と協力、意思決定の重要性について理解を深めている。 ・家族・家庭の意義や社会の関わり、取り巻く社会の変化について問題点と課題を設定している。 ・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、責任を持って行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性を考察するとともに実践しようとしている。	1 学期 期末考査
2 学期	○ホームプロジェクトの発表 4 被服の製作 (エプロン、三角巾、巾着袋) 7 章 住生活をつくる 1 人の一生と住まい 2 住生活の計画と選択	・衣生活を取り巻く課題、世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解を深めている ・健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理について考え、工夫している。 ・主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装や日本の衣文化の継承・創造について考察し、取り組もうとしている。 ・住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人との関わりについて理解している。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解し、住生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画について理解し、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報を収集・整理できている。 ・主体的に住生活を営むことができるようライフステージと住環境に応じた住居の計画、防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくり、日本の住文化の継承・創造について考察し、工夫できている。	2 学期 期末考査
3 学期	2 章 次世代をはぐくむ 1 子どもの発達 2 子どもの生活 3 子育て支援と福祉 8 章 経済生活をつくる 1 私たちの暮らしと経済 2 消費者問題を考える 3 持続可能な社会をめざして	・乳幼児の心身の発達と生活、遊び、親の役割と保育、子育て支援、消費生活の現状と課題について理解を深めている。 ・親や家族、地域や社会の果たす役割を考察し、子どもとの適切な関わり方を考え、工夫している。 ・子どもを生み育てることの意義や保育の重要性について考え、また、自立した消費者として課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・家計の構造について理解するとともに生活における経済と社会との関わりについて理解している。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージごとの課題や社会保障制度などと関連付けて考察し、工夫している。 ・消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解するとともに、生活情報の収集・整理ができている。 ・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動できるよう考察し、責任ある消費について工夫している。	学年末考査